



# Group C

兼目真生  
Maiki Kenmoku

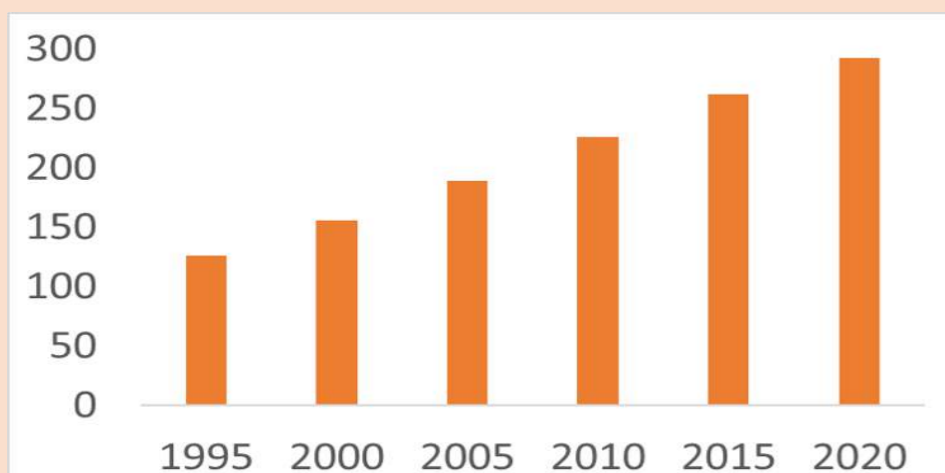
瀬川輝  
Hikaru Segawa

古川航気  
Kouki Furukawa

山崎健成  
Kensei Yamazaki

## 背景

### 認知症患者数の増加



出典：厚生労働省 ([http://www.mhlw.go.jp/kokoro/specialty/detail\\_recog.html](http://www.mhlw.go.jp/kokoro/specialty/detail_recog.html))

### 認知症重度化の原因 [1]

- ▶ 老化に伴う心身の虚弱化
- ▶ 認知症の中核及び周辺症状 (BPSD) の進行

### 治療方法

- ▶ 薬物療法
- ▶ 非薬物療法
  - 芸術療法
  - 作業療法
  - 回想法
  - 認知症セラピー

### アニマルセラピー

- ▶ 動物との交流によってもたらされる精神的な影響を生かした療法
- ▶ 噛み付きや飼育の負担、感染症などの問題

### ドールセラピー

- ▶ 人形を用いて感情を刺激し、認知症の進行を抑制する療法
- ▶ 人形は動かないため、患者からの一方的なアクションになってしまう

### ロボットセラピー

- ▶ ロボットとのコミュニケーションで認知症の進行を抑制する療法
- ▶ 高価で導入しにくい

### 期待する効果

- ▶ 3種のセラピーを複合的に行うことで認知症抑制効果の増大
  - 可愛い動物のぬいぐるみを使用 (アニマルセラピー)
  - 抱くことができる (ドールセラピー)
  - アクションをする (ロボットセラピー)
- ▶ 各種セラピーの問題点の解決

認知症の進行抑制

[1] 公益社団法人 認知症グループホーム協会 (2013). 認知症グループホームにおける利用の重度化の実態に関する調査研究報告書

# 提案

高齢認知症患者とお話するぬいぐるみ



## 目的

- ▶ 認知症の進行抑制

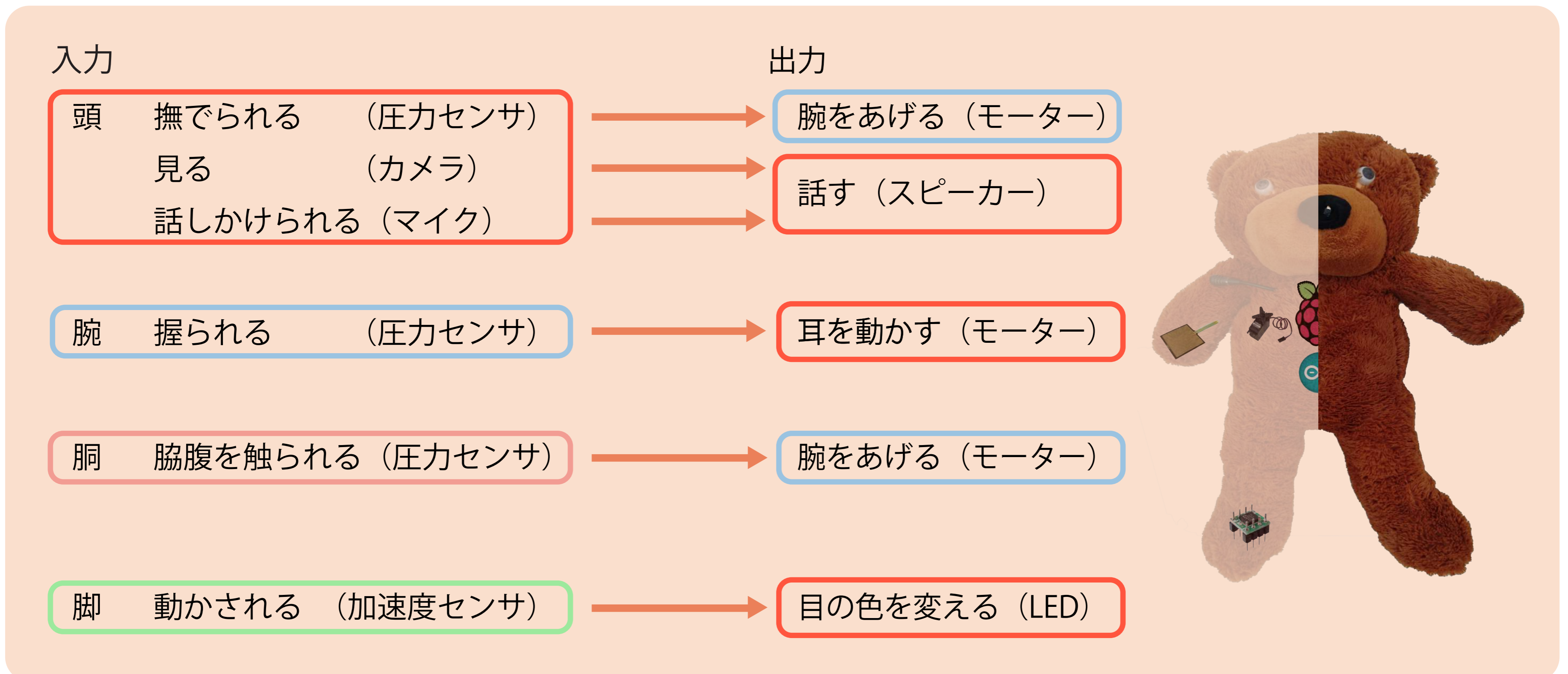
## 対象

- ▶ 高齢（65以上）の認知症患者
- ▶ 会話ができる、寝たきりではない

## ラズによって実現可能なこと



## ラズの機能



## 今後の展望

### ユニット化

ぬいぐるみだけでなく、認知症患者のお気に入りのものに導入



### 精度向上

顔認証・音声認識・センサ類の精度の向上によるぬいぐるみの改善



### ログの活用

「どのセンサがよく使われているのか」などの情報を取得し、改善に役立てる



### 評価実験

グループホームで評価実験を行い提案手法の有用性を証明

